

第72回
企画展



徳島と博覧会

入場無料



期間
令和7年 4月22日(火) → 8月3日(日)

開館時間/午前9時30分～午後5時

場所
徳島県立文書館 2階展示室

休館日
毎週月曜日・毎月第3木曜日(祝日の場合は翌日)

展示解説

担当職員による
やさしい展示解説

5月17日[土]、6月6日[金]、7月13日[日]
いずれも午後1時30分～午後2時30分

会場/文書館 2階 講座室・展示室



文化の森総合公園 徳島県立文書館
Tokushima Prefectural Archives

〒770-8070 徳島県徳島市八万町向寺山
TEL.088-668-3700/FAX.088-668-7199
<https://archive.bunmori.tokushima.jp>





2025（令和7）年4月13日より、「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」が開催されています。徳島県におきましても2022（令和4）年に万博推進課が設置され、準備が進められてきました。外務省によりますと、今回は1970（昭和45）年に同じく大阪で開催された万博よりもはるかに多い、165の参加国・地域・国際機関が集います。それぞれの個性や最新のテクノロジーを表現したパビリオン等が建ち並ぶ会場は壮観です。当館ではこの国家的なプロジェクトに合わせ、歴史に残る博覧会を紹介するために当展示を企画いたしました。

清酒「金陵」を生んだ阿波国小松島の大商人西野家の膨大な蔵書の中に、福沢諭吉が1870（明治3）年に著した『西洋事情』があります。福沢はこの書の中で1862（文久2）年にロンドンで開催された博覧会について記しています。当時、福沢は幕府の遣欧使節団の一員としてロンドンに滞在してい

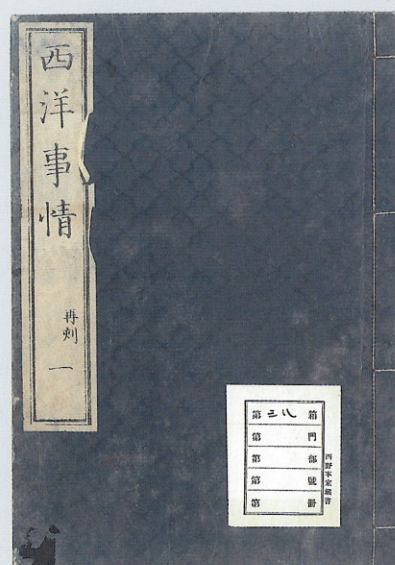
ました。彼は「西洋ノ大都会ニハ、数年毎ニ産物ノ大会ヲ設ケ、世界中ニ布告シテ各々其国ノ名産・便利ノ器械・古物奇品ヲ集メ、万国ノ人ニ示スコトアリ。之ヲ博覧会ト称ス」と著しました。博覧会の説明として、大変に的確で明瞭であると感じます。さらに、「智力工夫ノ交易ヲ行フカ如シ」と博覧会の本質を端的に表現しています。本年は「智力工夫ノ交易」が大阪において繰り上げられることになります。

博覧会は世界的規模のものという印象が強いかもしれませんが、様々なサイズで開催されてきました。徳島県に関わる歴史資料を中心に収蔵しております当館としましては、明治時代以降の国内外の大規模な博覧会を紹介するとともに、徳島県下で開催された博覧会や、徳島県の産物が国際的な博覧会に出品された記録などにも注目いたしました。来館者の皆様には新たな発見や、懐かしさを感じていただければと考えています。実際に大阪・関西万博に足を運ぶその前後に当展示を御覧になりましたら、その比較によって過去の博覧会との違いや共通点に気づかれるかもしれません。そういった様々な楽しみ方ができるのではないかと期待しています。御来館いただき、世代を超えて博覧会を話題にしていいただければ幸いです。

末筆ながら、当館に貴重な資料をお貸しいただきました松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館、また寄贈・寄託者各位に深く感謝いたします。

令和7年4月22日

徳島県立文書館長 山田 正之



徳島と博覧会

博覧会とは「産業・貿易・学術・技芸などの振興・促進のために、種々の産物・文化財などを集めて展示し、広く一般に公開する催し」（『小学館デジタル大辞泉』）とある。「博覧会」と聞いて一般的に想起されるのは、2025（令和7）年に大阪で開催される、世界各国が参加する大規模な「国際博覧会（万博）」ではないだろうか。しかし、実は博覧会の規模は様々である。例えば1872（明治5）年には、徳島城を会場に「徳島城展覧会」が開催されている。現存する資料は僅かだが、県内各地から集められた工芸品や見世物小屋、茶屋などが城内にズラリと並んだようだ。明治になって蜂須賀家の手を離れた徳島城は、この年に陸軍省の管理となっている（『徳島市史4』）。「権威の象徴」から「民が集う場」となって開催されたこの展覧会は、時代の変化など様々な意義をそなえていると言える。

明治時代、国内でも大々的な博覧会が開かれる。「内国勧業博覧会」である。第1回は1877（明治10）年に東京の上野公園で開催された。富国強兵の大目標のもと、産業の近代化や技術教育が進められる社会状況を背景に、当時内務卿だった大久保利通が開催を推進したとされる。第3回までは上野公園で、第4回は京都市の岡崎公園、第5回は大阪市天王寺・今宮で開催された。徳島からも出品があり、大きく評価を得たものもあった。

徳島からの出品は国内の博覧会に留まらない。当館収蔵資料から、1893（明治26）年のシカゴ世界博覧会に県内複数の商家から出品があったことがわかる。

徳島城趾は1906（明治39）年に徳島公園（現徳島中央公園）として整備され、1958（昭和33）年に再び博覧会の会場となる。「徳島産業科学大博覧会」である。関係資料には、戦後、全国各地で博覧会が催され、その成功が戦後の地方財政に大きく寄与したとある。同様の効果を求めた徳島市は1956（昭和31）年に博覧会準備調査費を予算計上し、事業をスタートさせる。そして市制施行70周年にあたる1958年に、徳島公園一帯を会場に、大々的に

開催された。残された資料を見ると、日本国内の各都市や各業界のトップメーカーから出品協力を得ることができ、その充実した内容から、徳島市は自ら「大成功であった」と評している。

徳島県内の地元密着型の博覧会として、1985（昭和60）年に開催された「'85 鳴門ピアワールドフェスティバル」がある。これは大鳴門橋の完成を記念して催されたもので、50日間にわたって鳴門総合運動公園（現鳴門・大塚スポーツパーク）をメイン会場に開かれた。こちらも収蔵資料は僅かだが、当時のパンフレットからは大きな盛り上がりを見せたことがうかがえる。また、詳細な記録も残され、その華やかさとともに実行委員会の苦労話を確認することができる。

時代や地域を問わず、博覧会の会場には来場者の感嘆や驚愕、憧れがあふれている。博覧会で交わった人やモノがまた新たな未来を創造する。本年の大阪・関西万博も、過去の博覧会と同様に、歴史的ターニングポイントとなるようなインパクトを各方面に与え、数十年先、百年先、さらにその先まで語られることを願ってやまない。



2025 大阪・関西万博

開催地：2025年4月13日（日）～10月13日（月）

開場時間：9:00～22:00 ※夜間入場（有料）

徳島県は、2025年大阪・関西万博会期中、「関西パビリオン」内に「徳島県ブース」を出展するほか、地域の魅力あふれる多彩なイベントを開催。万博会場で、皆様のお越しをお待ちしています！



HP・SNSでも情報発信しています！



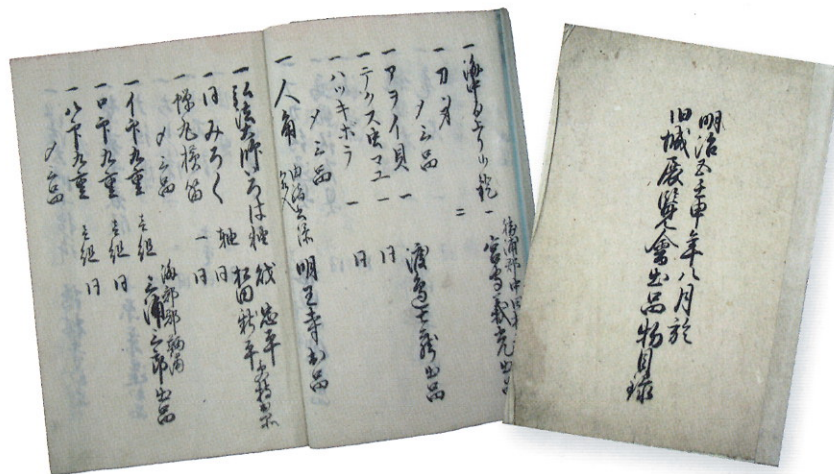
徳島城展覧会

ひとめそとけしき 外景一覽図



「外景一覽図」は、1872（明治5）年に、徳島城で開催された展覧会の盛況ぶりを描いた木版画である。会期は8月20日～9月20日の1か月間であった。平日の入場者数は3,000人に及んだといい、上部に記された文章にも、展覧会を見るために老幼男女が集まったとある。城内には旗が立ち、城壁や堀の周りにはブースが作られ、吸い寄せられるように近づく人々が描かれている。

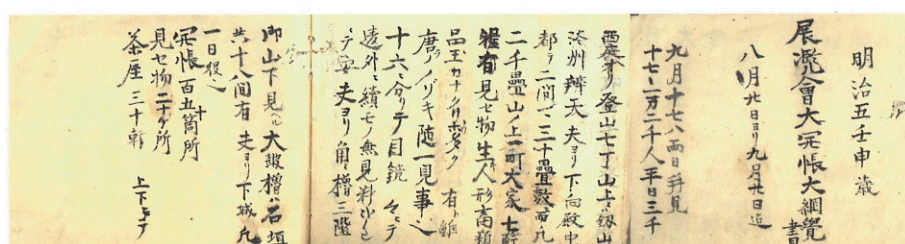
旧城展覧会出品物目録



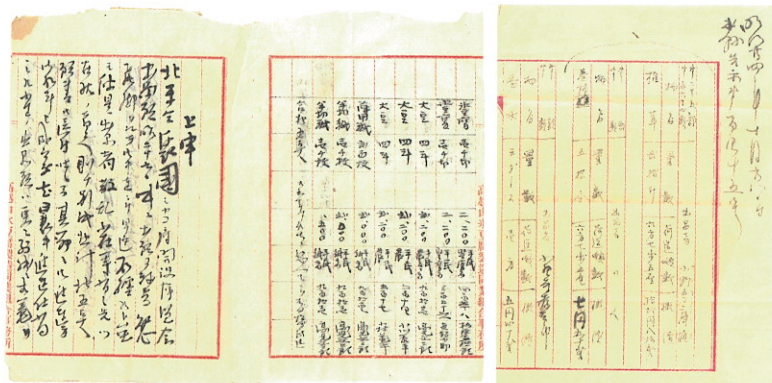
「徳島城展覧会」の出品目録。県内の寺社や旧藩士、豪農商と幅広く148名から461点の品物が出品された。出品物も「外景一覽図」の作者が展示物を「^{あらたなるたからもの}霊宝珍物」と称した通り、工芸品、古文書、動植物などジャンル也多岐にわたる。それぞれが、自慢の逸品を出したのであろう。

展覧会大開帳大綱覚書

この覚書は、カタカナ交じりで書かれた徳島城展覧会の見学記である。書き手は、御殿の座敷に陳列された仏像・宝物や「御代々御具足武器」を見物し、屋外の見世物小屋では「生き人形（本物そっくりの人形）」や「品玉（玉などを使った曲芸や手品のようなもの）」など、多くの展示品を見て回った。中でも「唐ラノノゾキ（のぞきからくり）」を「随一見事」と感嘆している。会場やその周辺で駕籠や襖を買い求め、展覧会見物を「一日役（全て見るには一日かかる）」と締めくくっている。



出品願(コロンブス世界博覧会に出品願控)



1893(明治26)年、コロンブスの新大陸発見から400周年を記念してシカゴで開かれた万国博覧会には、徳島からも出品があった。小野寺家文書の出品願控等によると、氷豆腐や大豆、和紙、椎茸、巻柿(干し柿を巻き固めたもの)、香水などが、美馬郡貞光村(現つるぎ町)や麻植郡川田村(現吉野川市)から出品されている。別の資料から、香水の原料はクロモジと考えられる。クロモジは日本固有の香木とされることから、当時の海外の人々には珍しかったのではないだろうか。

篠原製塩場 有功銅牌受領



1895(明治28)年、京都の岡崎公園で開催された第4回内国勸業博覧会では、徳島から出品された数々の製品が高い評価を受けた。なかでも鳴門塩業の中心地のひとつであった高島の篠原製塩場が出品した食塩は、品質や技術が大いに評価され、有功銅牌(メダル)を受賞した。この看板はそれを示すものである。たて約90cm、よこ約120cmの迫力あるもので、中央部には篠原家を示す商標が施されている。銅牌とともに飾られ、さらなる繁盛を呼んだのではないだろうか。

第5回内国勸業博覧会記念 余興動物園収容動物図



1903(明治36)年、最後にして最大規模の第5回内国勸業博覧会は、大阪市天王寺・今宮で開催された。この図は、博覧会に設置された「余興動物園」に収容された動物が描かれている。現在の動物園などで会えるものも多く描かれているが、「ブタヲザルの変生」とされる「白猴^{しろざる}」、そして「生物の血を吸ひ、又好みてはらわたを食らひ、肉をすかず」という特徴をもつ「樹猫^{たぬきねこ}」など、にわかには信じがたい動物も紹介されている。

御依頼書（徳島産業科学大博覧会開催に就いて）

[illegible][illegible]

’85 鳴門ピアワールドフェスティバル案内



1985（昭和60）年に大鳴門橋完成を記念して開催された、鳴門ピアワールドフェスティバルのリーフレット。家族で運動が楽しめる「大塚グループスポーツワンダーランド」や、城下町徳島を再現した「蜂須賀城下町」、NTT・NEC・富士通が共同出展し、当時としては珍しいテレビ電話やパソコン等に触れられた「ニューメディア館」等が人気を博した。有名歌手のステージや子供向けのイベントも行われ、出演者一覧からは小林幸子・榊原郁恵など現在も活躍している名前を見つけることができる。

55年前と今の万博

多様なEXPO'70グッズ



1970（昭和 45）年の大阪万博を楽しむために、大阪府吹田市の会場では様々な EXPO'70 グッズが販売されていた。当館には、全 352 頁にわたる公式ガイドブック、2 種類・5 冊のスタンプ帳、記念メダル、ペナントなどの収蔵がある。これらは、当時大阪に住んでいた小学生が何度も会場に足を運び、収集した品々である。同様の行動をとった人々が多かったのではないだろうか。

EXPO'70パビリオンパンフレット



「人類の進歩と調和」をテーマとした会場内には、77 の国、国際機構、企業などによる 118 のパビリオン（展示館）があった。さまざまな紙の形式、デザイン、言語で作成された各パビリオンのパンフレットを手に、当時の来場者たちは未知の世界との出会いに心を弾ませていたであろう。

EXPO2025大阪・関西万博チラシ



大阪・関西万博開催に向けて事前に作成されたチラシ。徳島県が属する関西広域連合が出展する「関西パビリオン」の一角に、「徳島パビリオン（徳島県ブース）」が設けられる。テーマは「五感で徳島を体験」。徳島の伝統工芸品や最新技術を使ってブース内の空間を彩り、様々な体感・体験ができるとある。また、イメージ図には車椅子の来場者が描かれ、多様性への配慮もうかがえる。作成されて間もないチラシではあるが、時間の経過とともに貴重な歴史資料となり得る。

展 示 資 料 一 覧

No.	表 題	年 代	資料番号
徳島城展覧会			
1	外景一覧図	1872 (明治 5) 年	イワ400426
2	旧城展覧会出品物目録	1872 (明治 5) 年	イワム01750
3	展覧会大開帳大綱覚書	1872 (明治 5) 年	キノウ00420
4	展覧会の告文	1873 (明治 6) 年	イワ400110
5	徳嶋展覧会手引図絵	1872 (明治 5) 年	松茂町歴史民俗資料館・ 人形浄瑠璃芝居資料館蔵
内国勸業博覧会			
6	(第四回内国勸業博覧会出品の椎茸を宮内省へ買上の通達)	1895 (明治 28) 年	オノテ00555
7	(篠原製塩場 第四回内国勸業博覧会有功銅牌受賞記念看板)	1895 (明治 28) 年	徳島県立文書館蔵
8	(第五回内国勸業博覧会記念余興動物園集容動物図)	1903 (明治 36) 年	ヨコイ00077
9	平田東助 (勸業博覧会褒賞授与式挙行の件)	1907 (明治 40) 年	オオ503050
海外の博覧会			
10	出品願 (明治 26 年アメリカ合衆国シカゴ開設のコロンブス 世界博覧会に出品願控)	1891 (明治 24) 年	オノテ00442
11	北米合衆国シカゴ開設コロンブス博覧会出品表	1891 (明治 24) 年	タカミ1586001
四国連合共進会			
12	四国連合共進会会場図	1886 (明治 19) 年	イワ400502
13	四国連合共進会陳列場 1 / 150 ノ図	1886 (明治 19) 年	ミフ201006
14	四国連合共進会賑興行歌舞音曲表	1886 (明治 19) 年	ミフ201055
15	当阿波国之義 (旧藩領当時紙漉取扱方に付四国連合共進会の節)	1886 (明治 19) 年	タケタ00098
徳島産業科学大博覧会			
16	御依頼書 (徳島産業科学大博覧会に就て)	1956 (昭和 31) 年	イワム 02587
17	徳島産業科学大博覧会開催要綱	1956 (昭和 31) 年	イワム04799
18	徳島産業科学大博覧会 景品付前売入場券 (半券)	1958 (昭和 33) 年	イワム07707
19	徳島産業科学大博覧会誌	1959 (昭和 34) 年	イワム07060
鳴門ピア			
20	'85 鳴門ピアワールドフェスティバル案内	1985 (昭和 60) 年	イワム07779
21	'85 鳴門ピア阿波電字瓦版	1985 (昭和 60) 年	イワム07781
22	'85 鳴門ピアワールドフェスティバル公式記録	1985 (昭和 60) 年	G198902504
1970 年大阪万博			
23	日本万国博覧会公式ガイドブック	1970 (昭和 45) 年	石尾家文書
24	EXPO'70 パビリオンパンフレット	1970 (昭和 45) 年	石尾家文書
25	エキスポスタンプ (スタンプ帳)	1970 (昭和 45) 年	石尾家文書
26	日本万国博覧会政府公式記録	1971 (昭和 46) 年	G199000279
その他の博覧会			
27	第二回水産博覧会要録付録 各府県出品漁具及製造用器具図	1897 (明治 30) 年	イワム01835
28	第二回水産博覧会誌 第五号	1897 (明治 30) 年	イワム02175

※資料保存のため展示品の一部を替えることがあります。

第72回 企画展 「徳島と博覧会」

令和7年4月22日 発行

編集・発行 ● 徳島県立文書館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

電話 088-668-3700 / FAX 088-668-7199

印刷 ● (協) 徳島印刷センター

〒770-8056 徳島市問屋町165番地

電話 088-625-0135



日 時 / 5月17日(土)・6月6日(金)
7月13日(日)
各午後1時30分～午後2時30分

会 場 / 徳島県立文書館
2階 講座室・展示室

担当職員
による
やさしい
展示解説